

水稲多収性品種—アケノホシ・水原258号—の安定多収栽培法

梅木佳良・牧 慧・坂本真一・鈴木喜代志 (宮崎県総合農業試験場)

Yoshinaga UMEKI, Satoshi MAKI, Shin-ichi SAKAMOTO and Kiyoshi SUZUKI : Method of Stabilizing and Increasing Yields of High Yield Rice Cultiva "AKENOHOSHI and SUIGEN 258"

多収性が期待されているアケノホシおよび水原 258 号 (韓国稲)の気象条件および土壌肥料条件等の環境要因に対する反応を解明し、多収性を十分に発揮しうる好適栽培条件を明らかにするため、1981~1983年の3ヵ年間にわたり検討したので結果を報告する。

1. 試験方法

1981年は水原258号の移植期(5/15・6/5・6/26・標準)とN施用量(1.5・2.0・2.5kg/a)について、1982年は早植栽培(6/1植)でアケノホシのN施用量(1.0・1.5・2.0kg/a)と水原258号のa当たりN量2.0kgの施用法(基肥一分げつ肥—ラグ期肥—穂肥—実肥)について、1983年は標準栽培(6/23植)でアケノホシはa当たりN量1.5kg,水原258号は2.0kgの施用法について検討した。栽植様式は条間30cm,株間15cm(22.2株/m²)で、箱育苗した2.4~3.3葉の18~24日苗を1株当たり3本を手植した。なおaあたりに珪カル30kgとP₂O₅1.0~1.5kgを代かき時に全量施用、K₂OはNと同量を同時期に施用した。

2. 試験結果および考察

調査成績の一部を第1表にあげた。

1) アケノホシの好適栽培条件 N施用量が多いほど増収したが、耐倒伏性に難点があり、適量は1.5kg/a程度と推測された。移植期は未検討であるが、標準移植期でも十分に収量性が発揮されるものと思われる。2ヵ年の結果から標準品種のニシホマレより10%増収させるための栽培条件を要約すると次のとおりである。

移植期：5月中旬~6月下旬

N 量：基肥0.5—分けつ肥0.4—ラグ期肥0 (kg/a) —穂肥0.3—実肥0.3 合計 1.5

2) 水原258号の好適栽培条件 標準移植期(6月下旬)より早植え(5月中旬~6月上旬)で多収性が発揮され、N施用量が多いほど増収したが早植栽培におけるa当たりN量2.0kgに対する2.5kgの収量比は101~104%であり、N量の適量は2.0kg/a程度と推測された。3ヵ年間の結果から標準品種のニシホマレより30%増収させるための栽培条件を要約すると次のとおりである。

移植期：5月中旬~6月上旬

N 量：基肥0.8—分けつ肥0—ラグ期肥0.4 (kg/a) —穂肥0.5—実肥0.3 合計 2.0

3) 地帯別好適作期の策定 水原 258号が標準移植期で収量性が発揮されなかった最も大きな要因は玄米千粒重や登熟歩合など登熟性の低下によるものであり、登熟温度の適温は日本稲より高い 960℃以上と思われる。アケノホシおよび水原258号の登熟温度をそれぞれ880℃

(日本稲並み),960℃として宮崎県内の地帯別出穂期の晩限とその時の移植期を策定すると第2表のとおりで、水原 258号は標準移植期より2~3週間程度早植えする必要がある。

第1表 収量および収量構成要素

年次	品 種	移植期	穂数	粒数	粒数	登熟歩合	玄米千粒重	精玄米収量	出穂期	
年		月/日	本/m ²	粒/穂	百粒/m ²	%	g	kg/a	月,日	
1981	水原258号	5/15	386 (128)	114 123	441 156	80.1 99	22.1 95	78.0 146	8.6	
		6/5	392 (130)	114 123	446 158	85.4 105	21.8 94	83.0 156	8.20	
		6/26	338 (112)	141 152	478 168	68.0 84	22.1 95	71.4 134	9.2	
1982	水原258号	6/1	435 (120)	116 145	505 173	69.9 79	21.6 94	76.2 128	8.20	
		アケノホシ	6/1	324 (89)	135 169	436 149	70.9 80	21.0 92	65.0 110	8.13
1983	水原258号	6/23	364 (115)	125 151	456 172	63.2 73	19.5 92	56.2 116	9.7	
		アケノホシ	6/23	347 (109)	113 135	395 148	61.4 71	19.2 91	46.6 95	8.26
		(同上)	(同上)	(同上)	(同上)	70.0 81	20.0 94	55.3 113		

備考) ①()は標準品種(1981年・ミズホ, 1982~1983・ニシホマレ)の標準栽培に対する比率

②()は穂枯れ細菌病が発生しなかったと仮定した場合の推定値

③a 当たりN施用量

(基肥—分けつ肥—ラグ期肥—穂肥—実肥)(kg/a)

水原258号:0.8—0—0.4—0.5—0.3 合計2.0kg/a

アケノホシ:0.5—0.4—0—0.3—0.3 合計1.5kg/a

第2表 地帯別好適作期の策定

地帯区分 場所	水原258号 (2,060℃)				アケノホシ (1,750℃)				ニシホマレ (1,970℃)				ミズホ (2,300℃)			
	移植期	出穂期	移植期	出穂期	移植期	出穂期	移植期	出穂期	移植期	出穂期	移植期	出穂期	移植期	出穂期		
沿海中部 宮崎市	6.6	8.26	7.2	9.6	6.23	9.6	6.8	9.6								
沿海上部 延岡市	5.28	8.21	7.1	9.2	6.21	9.2	6.5	9.2								
霧島高台 都城市	5.24	8.19	6.23	8.31	6.13	8.31	5.27	8.31								

備考) ①登熟温度を水原258号/960℃, アケノホシ他日本稲880℃

②()は移植期~出穂期の積算温度